



## 輸血検査技術講習会 in 香川県赤十字血液センター

香川県赤十字血液センターにて平成28年11月19日(土)・20日(日)に輸血検査技術講習会を開催しました。1日目は香川センター主催で対象は香川県内の医療関係者、2日目は中四国ブロックセンター主催で愛媛県・徳島県の医療関係者を対象とし、参加者は香川県10名、徳島県5名、愛媛県4名でした。スタッフは中四国ブロック血液センターから5名、香川県赤十字血液センターから2名の計7名で、両日も参加者を3班に分けて行いました。

内容は初級者を対象としたもので、①凝集判定の目合わせ(5検体2回)、②血液型検査(3検体のABO・RhD)、③不規則抗体スクリーニング検査(1検体)、④交差適合試験(1検体×2製剤)を行いました。



凝集判定の目合わせは初めて行う参加者も多く、人に見られながら判定するのはとてもやりにくそうでした。1回目の判定後一人一人にアドバイスをを行った後、2回目の判定を行ってもらうと多くの参加者が期待する結果に近付くことができました。

ABO血液型検査で準備した部分凝集の検体は、初めて見るという参加者も多かったです。このような検体は通常業務の中では滅多に遭遇することはなく、見逃してしまいがちですが、実際に部分凝集検体の判定を体験してもらうことで、違和感を覚えた時には再検査を行うようになってもらえると嬉しいです。

参加者のアンケートでは、「凝集判定の目合わせができて良かった」、「今まで知らなかった事を知ることができた」、「疑問に思っていた事について質問に答えてもらってよかった」、「施設に帰ってから今日学んだことを活かしていきたい」、「自信がついた」などの嬉しいコメントをいただきました。私にとっても医療機関の方が疑問に思っている事を知る良い機会となり、今後の輸血検査技術講習会に反映させていきたいと思えます。輸血検査技術講習会を開催することで、少しでも医療関係者のお役にたてれば幸いです。

(中四国ブロック血液センター 検査一課 川尻なぎさ)



# 医療機関輸血担当者による勉強会を通して

当血液センターの供給課では、医療機関に対し、血液製剤を正確かつ迅速に供給することはもちろん、多様なニーズに応えることが求められています。そのためには、供給課職員の対応力の向上が課題であると考え、昨年から対応力の向上を目的に、医療機関の輸血部門担当者の方を招いて勉強会を開催しています。



昨年度は3施設、今年度は5施設の担当者の方に勉強会の講義をお願いしています。「輸血検査部門と血液センターの連携について」、「当院における輸血検査」といった講義をしていただき、医療機関へ納品された血液製剤の取扱方法や、患者さんへ輸血されるまでの流れについてご教示いただいています。また、各医療機関の診療科別血液製剤使用状況や、緊急輸血時の院内の取り決め、在庫管理から使用済みバッグの回収状況などの情報も提供していただいています。講義と質疑応答で1時間の予定のところ、意見交換が活発になり、所定の時間を過ぎることもしばしばありました。

医療機関の担当者の方と供給課職員がお互いに、和やかな雰囲気の中で、日ごろから気になっていたことを質問したり、発注についての疑問を尋ねたりするなど大変有意義な時間を共有することで、勉強会に参加した供給課職員からは、「医療機関の担当者の方とより親しみ易く、話しやすくなった」、「配送に行った際や、電話でのやり取りも円滑になった」、「医療機関での輸血業務全般について、さらに理解できた」という意見がありました。

私は、輸血に関する知識を習得することで、医療機関の実情をより深くくみ取れるようになり、自信をもって対応できるようになりました。

これからも、継続的に勉強会を開催することにより、医療機関とのコミュニケーションと連携を積極的に図り、一層の対応力を向上させたいと思います。

(香川県赤十字血液センター 供給課 鎌田奈穂)

